小女郎蜘怨苧環

上

Gôkan:(No. 070)
Kojorô Gumo urami.
Book 1--2.

へ 13
3790
1

上古蝦賊を喚ぐ土蜘蛛と云ふ紀に云景行天皇の三十一年豊前國に土蜘蛛起る勅して之を平ぐ亦聖武天皇の天平四年蜘蛛もろく人と害を勅して之を殺せば長二丈余ありとらば是則光賊山林に穴居し網羅を張て人を刼せるべし野史附會の頼光土蜘蛛を砍の奇談世に傳るとも久し閲者覚らざ遂に故事とされりとぞ今予が著せる小女郎蜘蛛の物語も亦その類とするべし。

天保十二年丑正月再版

曲亭馬琴誌

門へ13
號3790
壺1

Gokan:(No. 070)
Kojorō Gumo urami.
Book 1--2.

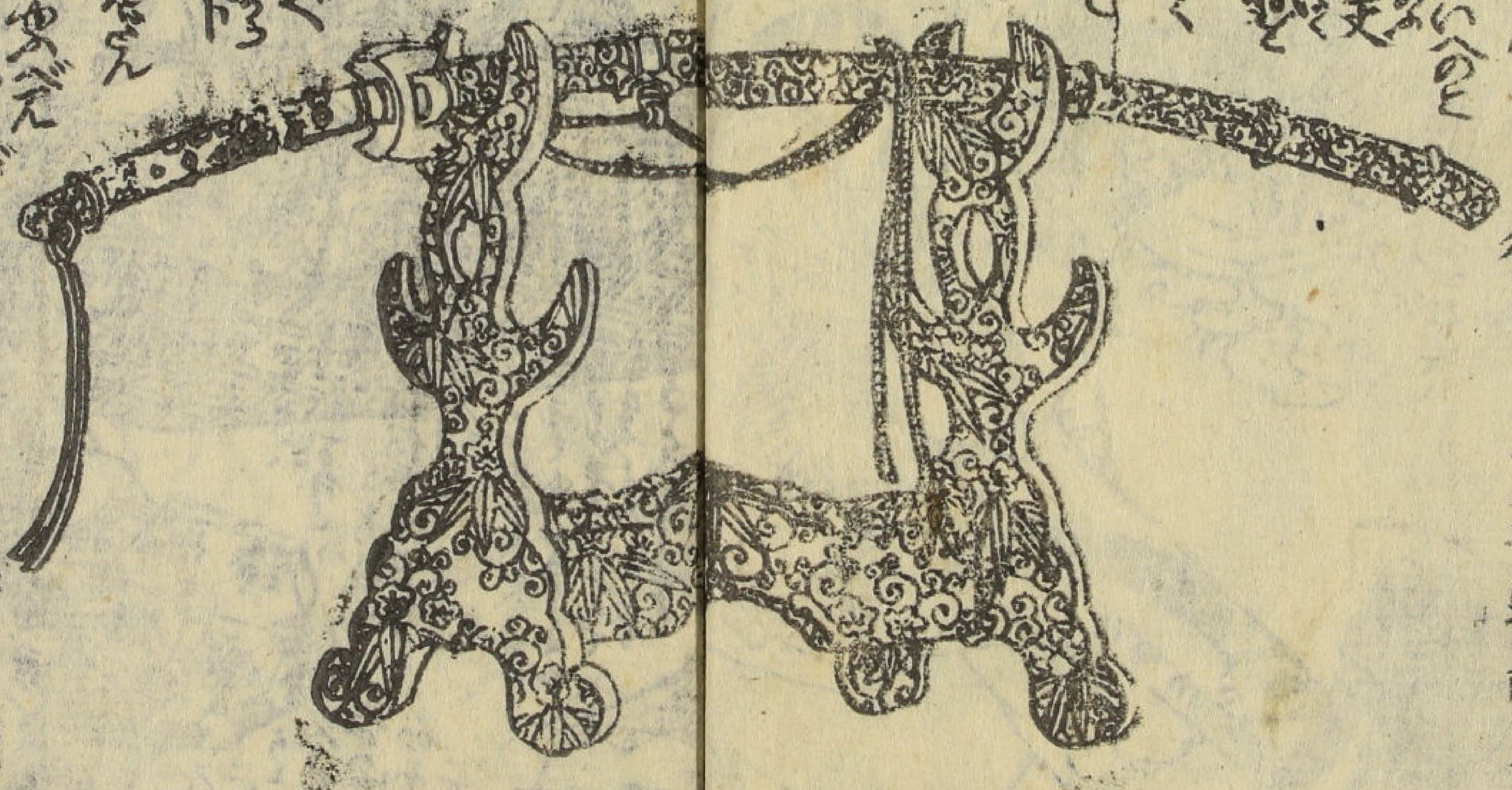
小女郎蜘蛛

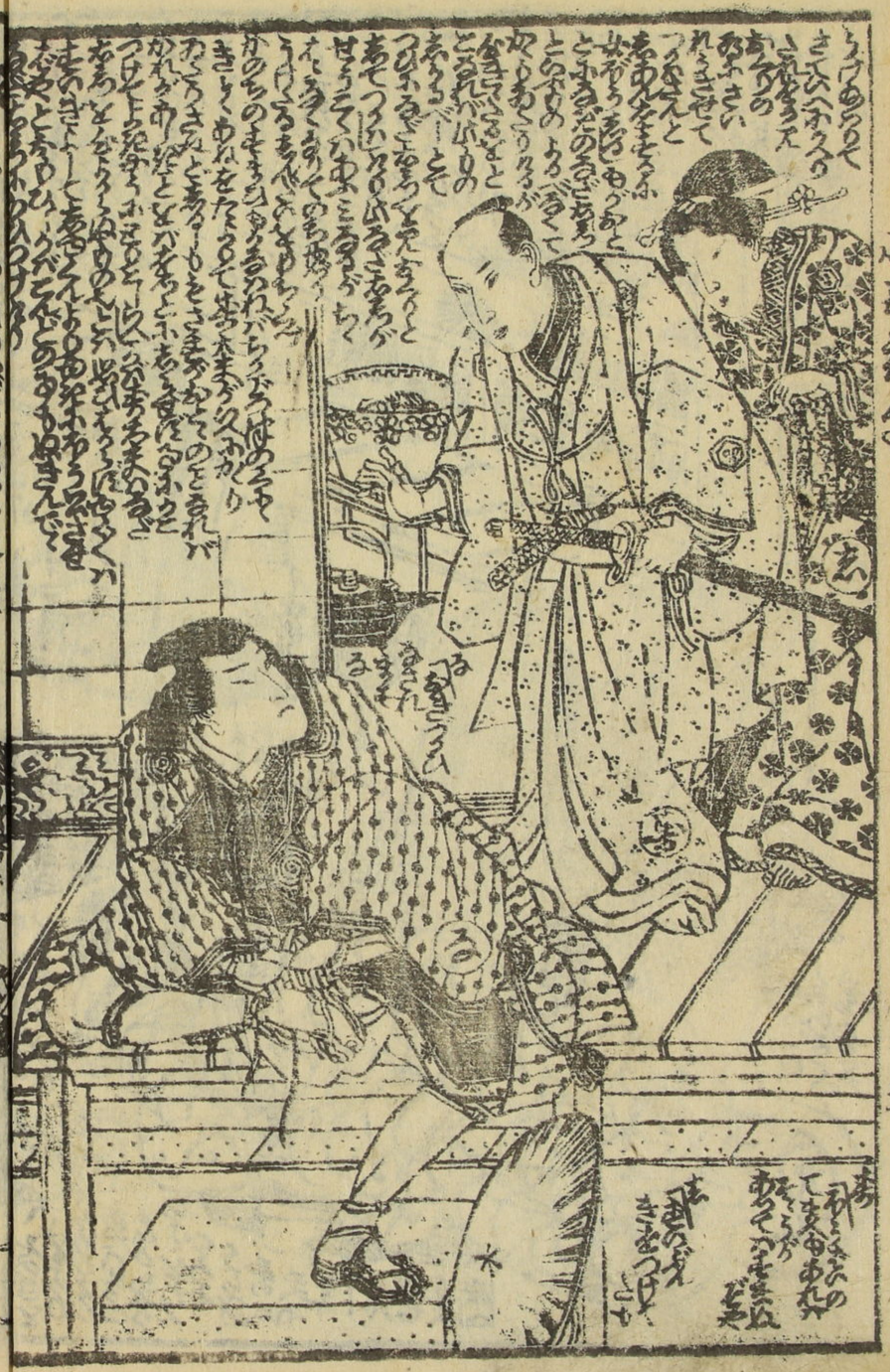
日結一尺網
知吐幾尺絲
百虫鳥獸食
九腹尚若飢
輪廻命蜘蛛詩
さくものの
いとも
くまなる事なれば
あれくる宿乃
主もなれりる
能因法師和歌
臼井
注連
之助
貞勝

右ウト三部の金吾
季綱
色
あらうらの
八重山こそ
箕田源二
秀綱
光俊朝臣
山ふかみ松の枝にとりわけて
足柄山姥
あのぞん
人不詳

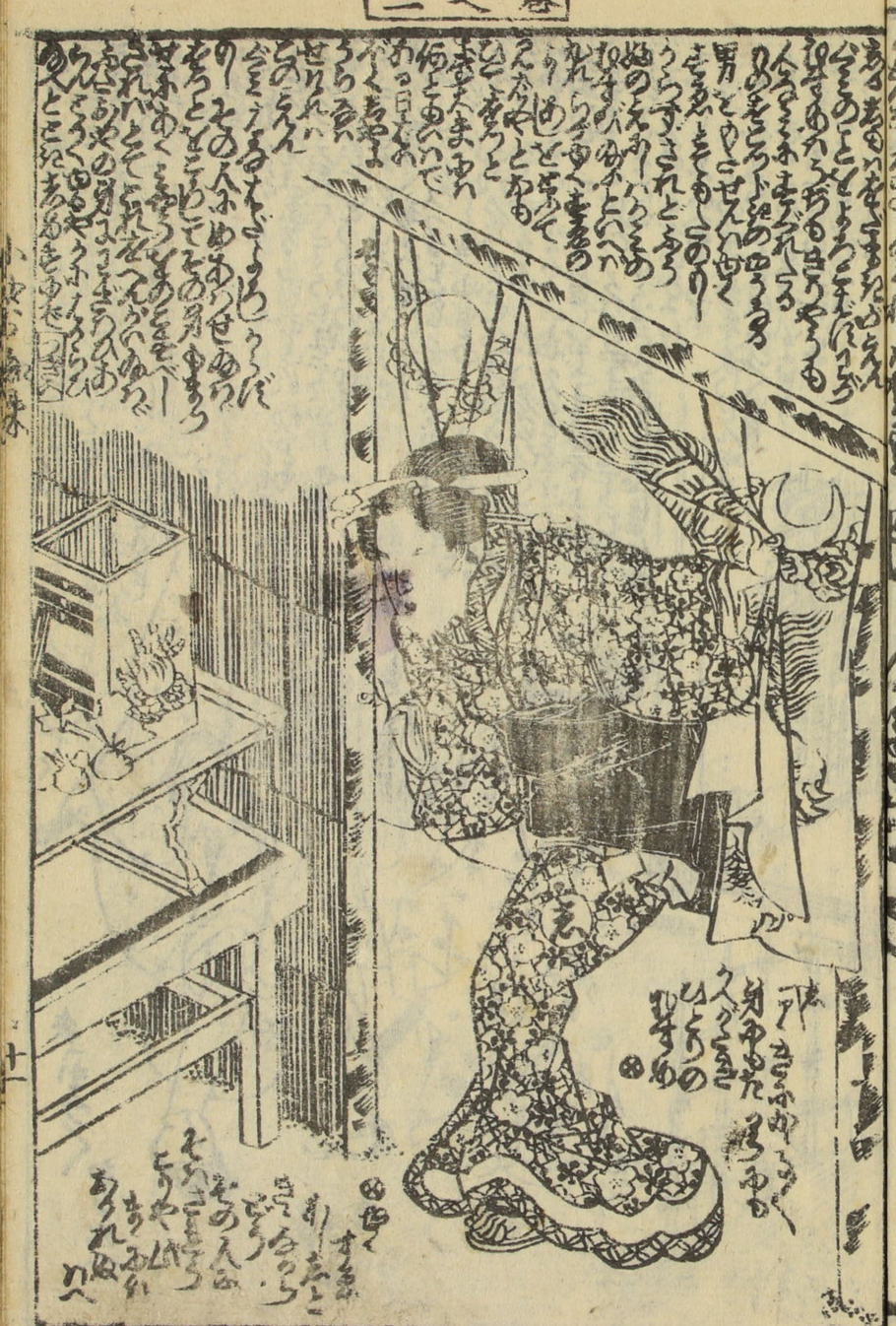
むかし後宇多院の弘安年中北條貞時鎌倉の執権たりし頃摂津の國
川辺郡に多田蔵人といふ武士あり先祖多田満中より此処を領しけれ
光の土蜘蛛を切りし宝剣を今に相伝へ齢四十におよびて嫡子なく
若竹といへる内室へおりおり世をさまらぬのみくぜ待宵といふ妾を寵愛せられ
懐妊して去歳の八月よりおよべり譜代のいへのと
かへ臼井主馬之進貞重卜部壽大夫
季宗とて貞光季武の子孫家老職を
勤め主君を補佐して其家よく
治り威あるに此家の義に于そ
なる蜘蛛切の宝剣おのづからぬけ出て
白髪なる老翁と変じ
然も刃の世の
剣の徳

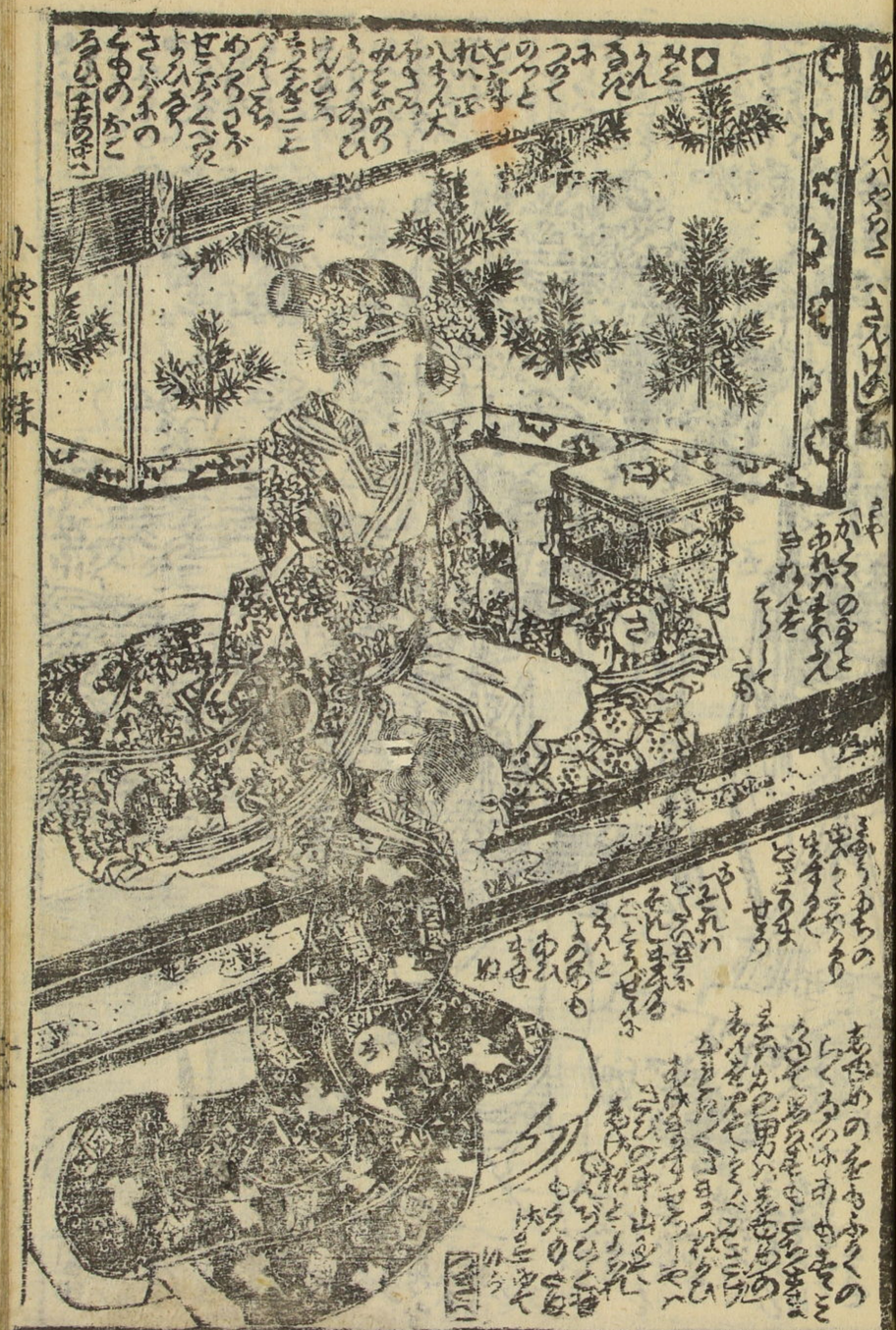
まのめ
久
しひ
あつ
と泣
せよ
たる
月も重の取古より下借腹の
るものは
はへ



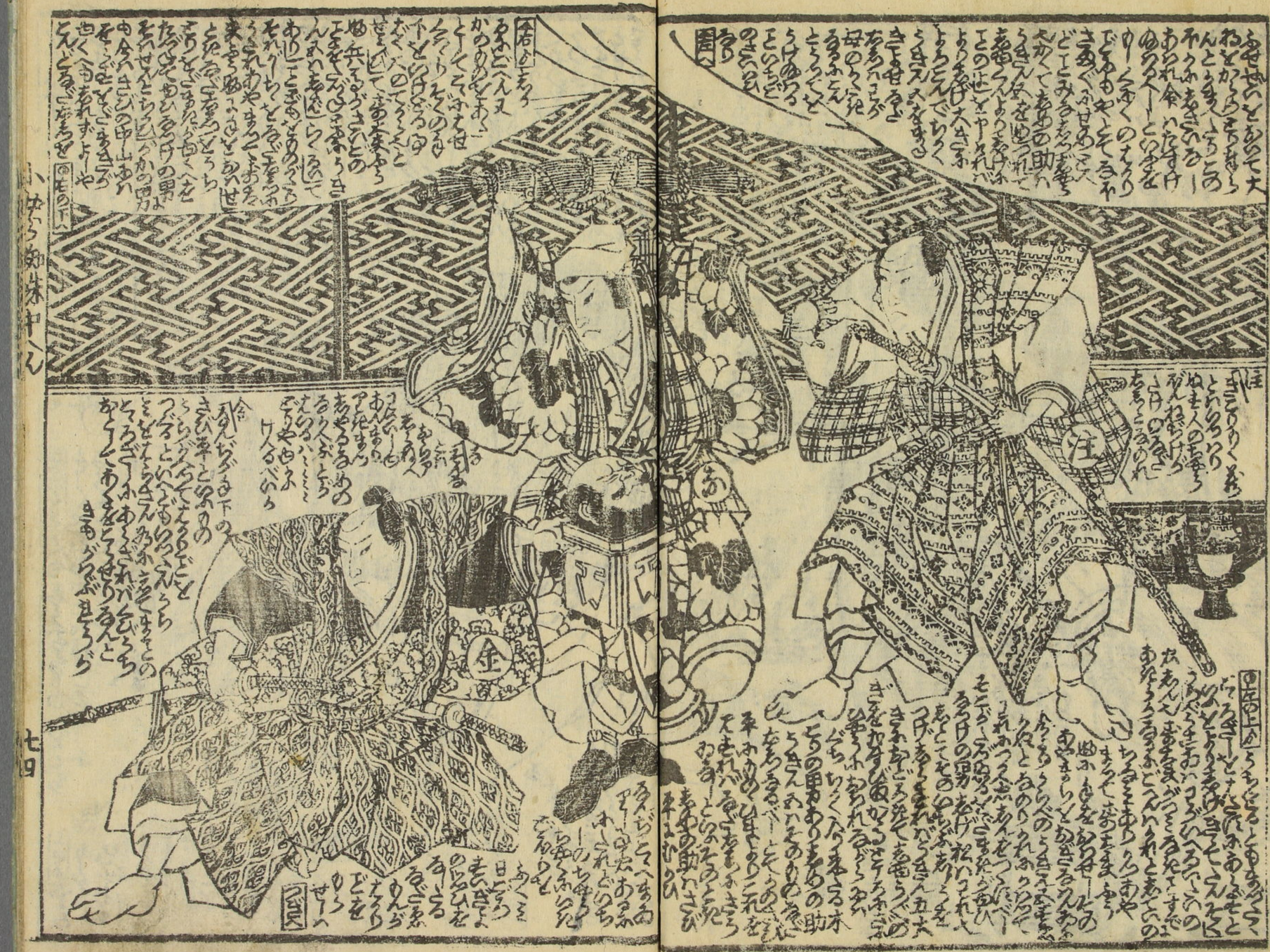


馬琴作

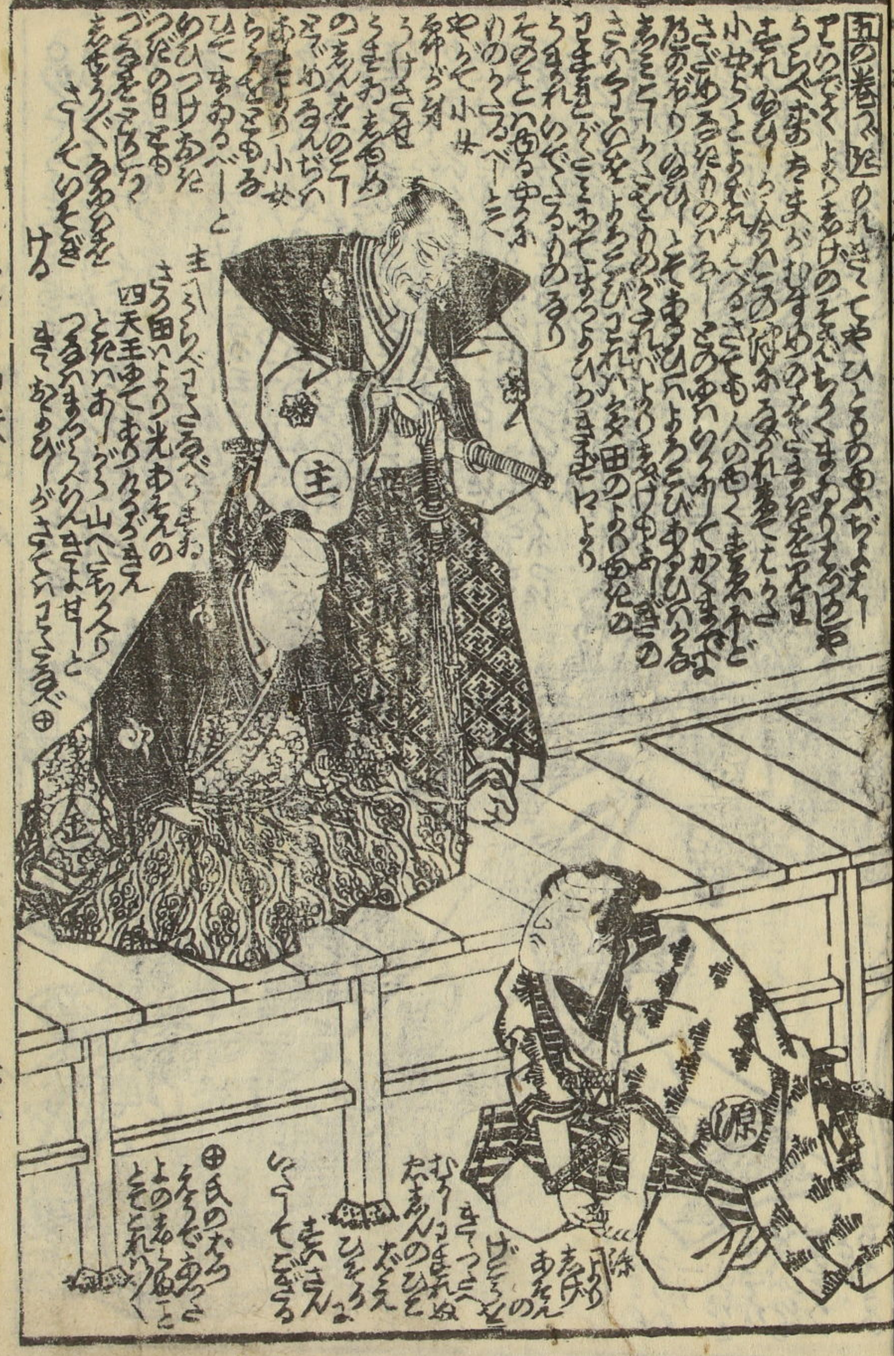




小女郎蜘蛛中編



やらぬへ



主
小

塚もく

大町於素